

古津八幡山遺跡（新潟市）

ふるつはちまんやまいせき

正面前方の丘陵上に古津八幡山遺跡が展開している



左下に古津八幡山弥生の丘展示館がある/上（北方向）の茶色の部分が古津八幡山古墳



これが古津八幡山弥生の丘展示館

[video](#)



展示や無料のパフレット等が大変充実していた



さて、左手の古津八幡山弥生の丘展示館から右手に、遺跡名称板の前を通過して、右手の「条溝2」から「条溝1」へと進もう



まずは遺跡名称板方向へ！

 [video](#)



前方に立て看板が見える





行こう!
歴史の広場

国史跡 古津八幡山遺跡



歴史の山行

2000年前の弥生時代の堅穴住居が7棟復元されています。



新潟県内最古の古墳

直径約60mの円周に平均高々7mの二段築成の円墳です。



史跡
古津八幡山遺跡

これが遺跡名称板





九十九折れを登って行く

 [video](#)



この辺りから遺跡のエリアとなるようだ

 [video](#)



まず、右手に進んでみよう



ここが「条溝2」 / 土塁の手前に条溝がある

[video](#)



左手から見たところ/手前に説明板が埋められている





南北方向の屋根を分断するためにつくられた空堀です。断面
下が狭いV字形です。平面形は西に開いた弧状の
空堀の内部であったことがわかります。
東側（東側）の土塁を復元し、中央を通路と指定し

この
寺

その先を見たところ



振り返って見たところ



さて、左手方向へ進もう/竪穴住居が復元されている

[video](#)





そこから北方向を見たところ



ここが「条溝1」





南北方向の尾根を分断するためにつくられた空堀です。断面の形は上が
な、下が狭いV字形です。

外側（南側）の土塁を復元し、中央を通路と推定して復元している。

規模：長さ 25 m、幅 3.5 m

反対側から見たところ/土塁の手前に条溝がある

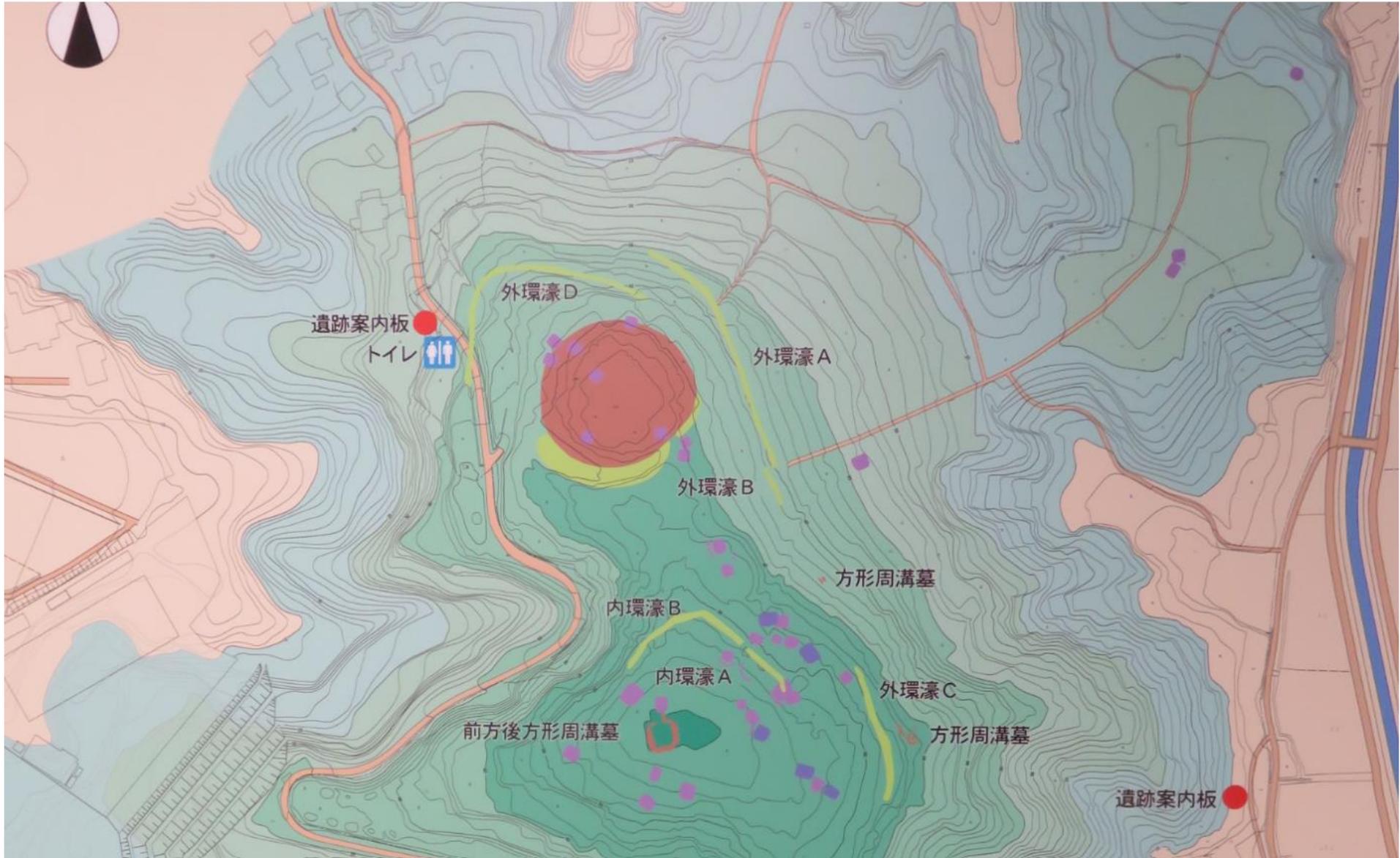
 [video](#)



さて、更に北方向にある環濠集落へと進む/前方にも復元された竪穴住居が見える



内環濠のエリアに残る前方後方形周溝墓、そしてその北側に所在する古津八幡山古墳（茶色の部分）へと進もう



この上が内環濠のエリア/竪穴住居が幾つか復元されている



その右手を見ると、外環濠Cが見て取れる

 [video](#)



その左手を見たところ

[video](#)



更に左手を見たところ



その更に左手には、前方後方形周溝墓が復元されている/左手前に説明板が埋められている/手前が前方部、奥が後方部

[video](#)





前方後方形の墳丘（後方部）の北側に通路のような突出部（前方部）のある口形
 墳墓です。集落が終わってまもない弥生時代終末期か古墳時代初頭
 頃に作られました。
 墳丘は残っていませんでしたが、復元しています。

ぜん ぽう こう ほう かたしゅう こう ぼ
前方後方形周溝墓 規模 全長13m（方台部）
 前方部 4×2.5m

後方部右手から前方部方向を見たところ



側面から見たところ/左手が前方部、右手は後方部

 [video](#)



さて、北方向に進むと正面に内環濠 A が、その左手に内環濠 B が見える

 [video](#)



その内環濠を A から B 方向に見たところ/土塁の右手が外環濠のエリア

 [video](#)



ここが外環濠（奥）のエリアと内環濠（手前）のエリアとの出入口のようだ/左手が内環濠B、右手は内環濠A

[video](#)



右手の内環濠Aを見たところ



左手の内環濠Bを見たところ



外環濠のエリアに進んで、振り返って出入口を見たところ

 [video](#)



そこで、右手を見たところ



同じく、左手を見たところ



こちらは外環濠Cが続く/この前方に復元された方形周溝墓があるようだ

 [video](#)



これは北側から見た内環濠B/左端は内環濠A

 [video](#)



そこで、振り返ると説明板があった/前方のマウンドが古津八幡山古墳のようだ

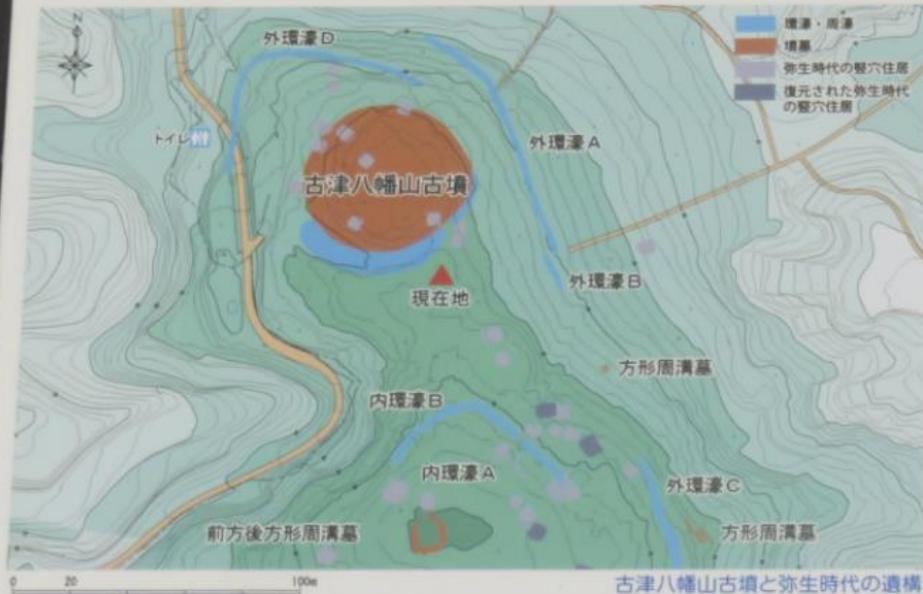




古津八幡山遺跡遠景



古津八幡山古墳空中写真



古津八幡山遺跡は弥生時代後期（1世紀～3世紀）の集落と古津八幡山古墳（4世紀終わり～5世紀初め）を中心とする遺跡です。古津八幡山古墳は遺跡のある丘陵の北端にあり、頂上の標高は約50mです。遺跡の西には越後平野が広がり、古墳頂上からは弥彦山・角田山や信濃川・阿賀野川の河口付近まで見わたすことができます。越後平野は新潟県内で古い時期の古墳（前期古墳）が集中してみられる地域です。古津八幡山古墳は県内の古墳の中で最大級の大きさの古墳で、越後平野の各地域の豪族が共同して押し立てた王（有力な豪族）の墓であった可能性も考えられています。

ふる つ はち まん やま こ ぶん
古津八幡山古墳（国指定史跡 古津八幡山遺跡）



南東方向から見た周濠



古墳断面



古墳づくりの想像復元図
(絵：早川和子)



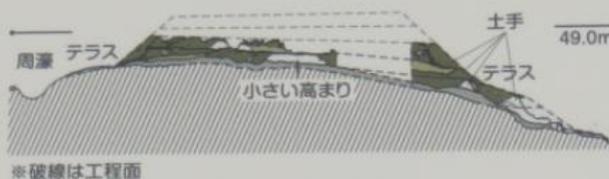
古墳頂上で見つかった平安時代の溝



周濠断面



古墳断面



古津八幡山古墳復元断面図



古津八幡山古墳と舟戸遺跡

古津八幡山古墳の発掘調査

古墳の復元整備工事に先だって、2011年～2013年に発掘調査を行いました。調査の結果、直径約60mの円墳で、斜面中ほどに幅約4m～5mの平坦面(テラス)が巡ることが明らかになりました。見つかった土器や古墳のつくり方などから、古墳時代前期の終わりから中期の初め頃(西暦400年前後)につくられた古墳と考えられます。

古墳は周濠を掘って出た土をおもに利用して、中心部に小さな丘のような高まりを、外側に土手をつくり、その間を土で埋めて平らにするという作業工程を4回ほど繰り返すことで高くつくられていました。場所によって使用する土を選ぶなど高い土木技術を持っていたことがわかりました。つくり方には畿内の古墳と共通する点があり、畿内政権から技術者が派遣されてきた可能性も考えられています。

古墳の頂上も発掘調査を行いました。埋葬施設は確認されませんでした。頂上では一辺約11mの四角形にまわる溝が見つかりました。この溝は西暦900年頃(平安時代)のもので、建物または墓に伴うと考えられます。この溝を掘る時に頂上が大きく削られ、埋葬施設が壊された可能性があります。

舟戸遺跡 古津八幡山古墳の盛土の下や周辺では弥生時代後期(1世紀～3世紀)の竪穴住居が多く見つかりました。古墳時代の建物などはなく、その頃の集落は麓にあったと考えられます。古津八幡山古墳をつくった豪族の屋敷(居館)は近くの古津野周辺の舟戸遺跡が有力です。

さて、これが古津八幡山古墳/古墳時代前期末～中期初頭築造の新潟県内最大の円墳/南東側から見たところ

[video](#)



二段築成で、中段にテラスが巡る

 [video](#)



左手を見ると、周濠が巡っている

 [video](#)



同じく、右手を見たところ



これはテラスに上がって、左手を見たところ

[video](#)



同じく、右手を見たところ



ここが墳頂/非常に広い

[video](#)



墳頂から、進んで来た環濠集落方向を見たところ

 [video](#)



同じく、北方向の外環濠D方向を見たところ/この背後の麓に、この古墳を築いた豪族の屋敷跡とされる舟戸遺跡が所在するようだ



これはテラスに下りて、東側で北方向を見たところ



そこから、東方向に墳丘尻を見たところ/こちらの方向に外環濠Aがある



これはテラスの西側で南方向を見たところ

 [video](#)



参考ホームページ

https://www.city.niigata.lg.jp/smph/kanko/bunka/rekishi/maibun/kuni_furutsuhachiman/gaiyo/furutsuhachiman.html

<http://ktmri15.webcrow.jp/p15eg/tpx1505232furutu2.htm>

<https://history.midoriit.com/2013/08/%E5%8F%A4%E6%B4%A5%E5%85%AB%E5%B9%A1%E5%B1%B1%E9%81%BA%E8%B7%A1.html>

<https://minkara.carview.co.jp/userid/2769227/blog/42676484/>

https://ele-middleman.at.webry.info/202009/article_36.html

<http://kojosikyo.main.jp/Niigata-C/Hatimanyama-Jo/Hatimanyama-Jo.htm>

